

第1回あべのタスカルにおける防災体験学習プログラム
及び施設体験価値向上に関する検討会議 議事録

●事務局

ただいまより第1回あべのタスカルにおける防災体験学習プログラム及び施設体験価値向上に関する検討会議を開催させていただきます。各メンバーの皆様におかれましては、本日お忙しい中お集まりいただき誠にありがとうございます。私は、本日進行役を務めさせていただきます、大阪市消防局予防課地域防災担当係長の伊東でございます。

はじめに消防局予防部地域担当課長の谷よりあいさつさせていただきます。

●谷 課長

皆様おはようございます。本日はお忙しい中、あべのタスカルにおける防災体験学習プログラム及び施設体験価値向上に関する検討会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。私は本会議の運営を担当しています予防課地域担当課長の谷でございます。どうかよろしくお願いいたします。

近年全国各地で災害が甚大化する中、防災に関する関心と取組みへの重要性が一層高まっています。大阪市立阿倍野防災センター「あべのタスカル」では市民の皆様が実際に災害に備えるための防災体験学習を提供しておりますが、さらに体験学習プログラムの向上と体験価値の向上に努めてまいりたいと考えております。本日は様々な専門知識をお持ちの皆様から貴重なご意見やご提案をいただきまして、今後の運営やプログラムの充実に反映させてまいりたいと考えております。どうぞ忌憚のないご議論をよろしくお願いいたします。

甚だ簡単ではございますが、私からのあいさつとさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

●事務局

続きまして、メンバーの皆様のご紹介をさせていただきます。なお、順不同でご紹介させていただきますのでよろしくお願いいたします。

- ・大阪公立大学名誉教授の 三田村 宗樹 様でございます。
- ・大阪教育大学教育学部教育協働学科教授の 碓田 智子 様でございます。
- ・摂南大学理工学部建築学科教授の 池内 淳子 様でございます。
- ・公認会計士の 沖 祐治 様でございます。

続きまして、事務局の紹介をさせていただきます。

消防局地域担当課長の 谷です。

地域担当副課長の 田中です。

地域防災担当の 吉富です。

本日は指定管理者でもある阿倍野防災センターのセンター長、藤岡センター長にもご参加いただいております。

それでは、お手元の資料の確認をさせていただきます。

- ・ 本日の会議次第
- ・ 【資料 1】 あべのタスカル検討会議開催要綱
- ・ 【資料 2】 メンバー名簿
- ・ 【資料 3】 あべのタスカル検討会議資料

以上でございますが、不足しているものはございませんか。

本会議は大阪市が定める「審議会等の設置及び運営に関する指針」に基づいて公開会議とさせていただきます。会議の議事については、大阪市ホームページに掲載させていただきます。また、議事録作成のため会議の内容を録音させていただきますのでご了承くださいますようお願い申し上げます。

まずはじめに「あべのタスカルにおける防災体験学習プログラム及び施設体験価値向上に関する検討会議」の趣旨説明をさせていただきます。会議名について長くなっていますが、以後は「あべのタスカル検討会議」という略称にさせていただきます。

阿倍野防災センターの運営検討については平成 16 年の開館から名誉館長制度により室崎氏から意見をいただいていたが、平成 28 年に大阪市議会において「幅広い層の方からアドバイスをもらうべきではないか」との意見があったことから 4 名の有識者によるアドバイザー会議を令和 2 年から令和 5 年にかけて開催しました。コロナ過も経て会議目的であったあべのタスカルの魅力を向上し多くの方に防災体験を実施していただく運営を検討していきました。

令和 7 年度からは新しく指定管理者と 5 年契約の開始となり、あべのタスカルの防災体験をより価値あるものにし、より市民の防災知識・技術を向上させていくという目的で今回このように「あべのタスカル検討会議」を開催させていただくに至った次第でございます。

令和 10 年 8 月末までの 3 年にわたる会議になりますが皆様どうぞ宜しくお願い致します。

●事務局

それでは、議題懇談に入らせていただきます。まず、メンバーの皆様の中から、座長を決めさせていただきたいと思います。

「資料１」をご覧ください。あべのタスカル検討会議開催要綱第４条の規定に、座長はメンバーの互選により定めるとされております。もしよろしければ事務局から提案のうえ、互選していただきたいと思いますがいかがでしょうか。

【メンバー同意】

座長は、昨年度の指定管理者選定委員会座長や消防局で実施する防火標語の委員を努めていただく等、当局における防災に関する様々な事業にご尽力をいただいております、三田村先生にお願いしたいと考えておりますが、委員の皆様いかがでしょうか。

【メンバー同意】

ありがとうございます。それでは三田村先生が座長に互選されましたので、ひとことごあいさつをお願いいたします。

●三田村 座長

座長に選んでいただいた三田村です。あべのタスカルのこれまでの活動をレビューしながら色々な意見をいただき、今後の活動に繋がるようより良い形に進めていければと思います。皆様どうぞよろしくお願いいたします。

●事務局

ありがとうございます。それでは、これから先は座長に議事の進行をお願いいたします。

●座長

それでは、早速議題の審議に入ります。まず、座長の代理の方を決めさせていただきたいと思います。あべのタスカル検討会議開催要綱第４条の規定に、座長代理は座長の指名により決定するとありますので、私から指名させていただきます。

地域のまちづくりに取り組んでおられ、昨年度の指定管理者選定委員にも携わっていただいた碓田先生にお願いしたいと思いますが、碓田先生いかがでしょうか。

●碓田 氏

承知いたしました。

●三田村 座長

碓田先生よろしくお願いいたします。

それでは議題２「あべのタスカルにおける現在の取り組み及び今後について」審議に入ります。事務局よりこの件につきまして説明していただきます。

●事務局

「資料３」に沿って説明させていただきますが、まずは現在のあべのタスカルの現状につ

いてお話しさせていただき、議題の検討に入らせていただきたいと思います。

「資料 2 ページ」をご覧ください。本会議で検討いただきたい事項として、開催要綱にも記載のとおり、

- ① 市民の防災知識・技術を向上させるために展示内容や指定管理者の指導要領の改善に努めていきたいと考えています。
- ② 社会の防災に対するニーズも変わってきていますのでそれに応じた効果的かつ効率的な運営に関するところで、限られた予算の中で少しでも多くの市民の方に防災知識技術を向上させていけるかという課題があります。
- ③ その他として 2 つの目的を達成するうえで必要な事項がありましたら随時検討を進めていきたいと考えています。

続いて「3 ページ目」ですがあべのタスカルの概要としまして、平成 7 年に発生した阪神・淡路大震災を教訓に大阪市地域防災計画を抜本的に見直し、災害に強いまちづくりをしていく一環としてあべのタスカルが入っているこの建物「阿倍野防災拠点」を建設しました。その中に 3 階と 4 階の一部に阿倍野防災センター「あべのタスカル」が入り、市民の防災知識・技術の向上を図る目的で平成 16 年に開設されました。その後平成 31 年にリニューアルを行いまして現在に至っています。

「4 ページ目」について、あべのタスカルは、現在会議を行っているエリアが防災学習体験エリアとなり、EV ホールを挟んで向かい側にあるフロアが防災研修訓練エリアという 2 つのエリアに分かれています。防災学習体験エリアでは災害発生から一連のシナリオに基づいて体験学習をしていただいています。防災研修訓練エリアでは地域の方や企業団体に実際の消防設備に使用していただいたり、防火防災の研修を受けていただいたりするエリアになっています。

【5P】あべのタスカルは恵まれた立地になっており、大阪の主要な駅である天王寺駅からアクセスが非常によく、近隣に天王寺動物園や Q's モール、あべのハルカス等の商業施設があり市民の方がとても足を運びやすい施設になっているかと思います。

施設概要は以上になりまして、ここからはあべのタスカルが現在どういった取り組みをしているか、そして今後どういう形で進めていきたいと考えているかを説明させていただき、その中でご意見をいただきたいと思います。

【6P】昨年度の来館者数をご紹介します。6 ページのとおり昨年度は 10 万 4 千人の方に来館いただき、各月、均一に来ていただいています。令和元年にリニューアルを行った際も多くの方の来館があり、10 万人を超える来館がありましたが、新型コロナの影響により翌年（令和 2 年度）は 3 万人を下回り、その翌年も少し回復しましたが、4 万人程

度でなかなか来館者が戻らない状況が続いてました。しかし令和5年から新型コロナが5類に移行になったところで来館者が増加し、昨年度（令和6年度）は能登半島地震や南海トラフ臨時情報が発表されたこともあり防火防災への関心が高まり10万人の来館者がありました。時期によっては予約が取りにくいような場合もあるという状況にあります。

【7P】施設の現状としまして、あべのタスカルにおいて来館者へアンケートを実施しております、約4000件のアンケートを取っております。その中で、「体験を満足しましたか」に対して9割の方は満足しましたと回答し、1割の方がやや満足で99%の方に満足頂いています。満足頂いたコーナーは震度7体験をはじめ多くのコーナーを満足していただいています。その反面、不満足なコーナーは母数の1%ほどの方々が各コーナーに対して改善するところがあるのではとご意見をいただいています。「助かる力・助ける力が身についたか」の質問については思う・やや思うの回答が約98%、「もう一度来たいと思うか」に対しては約9割の方が来館したいと回答いただいています。マイナス意見については本格的な体験ということで「ストレスがあった」「リアルすぎて怖い」のコメントを震度7体験、防災シミュレーター、がれきの街の体験のところでいただいています。リニューアルの際に少しでも実際に災害に被災した気持ちになって体験していただくとのコンセプトで展示しているので、どうしても一定の方は不快に感じることもあるのかと思います。こういった方には体験前に事前に御案内であったり、コース体験を途中で抜けていただく等、取り組んでいきたいと思っています。その他の意見として、消火体験は現在、デジタルでの体験となっていますが、水での消火体験をしたほうがいいのかとの意見をいただいています。それに関しては実施回数は限られていますが屋内消火栓の体験やイベントによっては水消火器での体験も実施していますので、御案内をしていこうと思っています。また、がれきの街の見学時間を長くしてほしいとの意見もありますので、当日の来館者数に合わせてフレキシブルな対応ができるか、指定管理者と検討を進めていきたいと考えています。このようにネガティブな意見もいただいています。毎月指定管理者と共有を図って少しでもいい方向に繋がるように取り組んでいます。本日はあべのタスカルに対してご意見ありましたらその内容をお伺いして体験内容に盛り込んだり、運営に反映していきたいと考えています。

【8P】来館者数へのアンケート結果から来館者の年代は各世代均一にお越し頂いていると考えています。住まいについては市内が4割、府内が30%程度、残りはその他となっています。アンケートに答えていただいた方の数値になるので実際は少し変わるかもしれませんが、市内に在学・在勤の方も含めると5〜6割の方が市内に在住・在学・在勤となっています。来館回数は初めてが8割となっていますが、来られた方に直接感想をお伺いすると「とても良い施設ですね」と言っていただき、アンケートに回答していただく率も高くなっているところもあると思います。こういった数字をもう少し正確に取る方法がないかというところを後ほど説明させていただきます。施設を何で知ったかという項目についてホー

ホームページや知人友人からといったところが多くなっています。メディアに取り上げていただくこともあるがメディアであれば2、3カ月に1回程度何かのイベントに合わせてという感じですのであまり数字が上がっていないのかなと。SNSについてはInstagramやXにとっても力を入れていただいております、少しずつは伸びてるのかなと。ただ実際は、知り合いの方があべのタスカルに来館してその方から紹介され来られる方が多くなっています。ホームページが多くなっている理由は来館するにあたってインターネットで検索をかけてホームページを確認してから来られる方が多いのかなと考えています。補足ですが、アンケート結果のところでも多くの方にこの施設に興味を持ってきていただき来館していただくことが必要だと消防局は考えていますので、これからホームページやSNSの充実は当然図っていきますが、よりテレビなどのメディア取材対応に力を入れていこうと考えています。現状、メディアを通して施設を知って来館された方の割合は少なく、昨年度はテレビ取材を6件受けていますが、イベント前等にメディアに売り込むこともあるが、どうしても受け身になってしまっています。各メディアの方から取材依頼があったものに対して受けるという形になっていますが、これからは防災の関心が高まる時期、9月の防災週間や火災予防運動期間の11月阪神淡路大震災が起こった1月、東日本大震災の3月等に今まで取材をしていただいたメディア等に、この日でしたら取材できますというご案内をして施設を取り上げていただくような形にしていきたいと思っています。メディアにどのような形であれば取り上げてもらいやすいかを尋ねると、一度取材した内容では取り上げにくいので何か変わった所や消防局がプラスで伝えたい事等があれば機会として増えていくのではと回答がありました。よって、いろいろな新しい取り組みもしながらメディアに売り込んでいけたらと思っています。

【9P】消防局として現状の管理運営について課題が2点あります。令和元年度のリニューアルを行ってから、更新の費用がなかなか取れない状況にあります。かつ、施設の管理維持についても社会的な物価の高騰もあり、維持コストに係る費用が増えてきていることもありプラスでお金をかけることが難しい現状があります。また指定管理者に管理運営をしていただいておりますが、今までは積極的に収益となる事業に取り組めておりませんが、今後、有料コースの設定や後ほどセンター長から説明があります自主事業、収益事業を拡大していきたいと考えています。これにより指定管理者の収益増加につながれば、将来的に指定管理に係る業務代行料の削減に繋がり、削減した予算を更新費用に充てるようなサイクルにできればと思っています。

【10P】このように費用的な課題も大きく抱えていますが、一番大事なところはソフト面のところで防災体験に関する指導をより良くしていくところにありますので、まずは現状の取組みを説明させていただきます。昨年度は指定管理者の中でコースの案内をいただく女性スタッフのアテンドについては3社での共同事業体のうち1社単独で入っております。

たが、今年度からは3社から2社となり、大阪消防振興協会のほうでアシスタントコーチを育成するという形に変わっております。今までアテンド、案内をいただいていた方がアシスタントコーチとして防災士の資格を取っていただき、コースの中でも最後の振り返りの際に体験者への質問対応もしていただいています。このようにコース体験の案内もしていただきながら、体験者への助言・指導を行うという体制に改めています。今までは決まった案内のセリフを伝えていただきそれに沿って案内をしてもらっていましたが、より体験者に合わせた助言や指導をするよう考えながら話すことで、アシスタントコーチのレベルも上がって来てると思います。

また、直近に起こった災害についての対策などを伝えることはこれまでなく、決められた案内のみで、消防職員OBがそういった助言を行っていましたが、今年度からはアシスタントコーチが実施する体制となっています。

【11. 12P】その他の取組みとして、以前からも行っていた部分もありますが、お子様や子育て世代、高齢者向けといったそれぞれの年齢層を対象としたイベントを実施であったり、気象庁さま、海上保安庁さま、自衛隊さま、環境局、地域の方と連携したイベントを開催したり、民間の事業者とコラボしたイベントを開催したりして他の機関との連携も実施しています。昨年度はこれに加えてVRのデジタルコンテンツを活用しイベントを実施して初めての試みであったが、このように様々なチャレンジをしながら消防局と指定管理者で検討し取り組んでいきたいと思っています。

【13P】その中で昨年の取り組みの中で、先ほどもメディアへの対応という話をしましたが、今年の1月は阪神淡路大震災から30年ということで、NHKさんが当時の映像を上映できる場所がないか、そして内容的にもテレビで放映するにはショッキングな映像もありました、防災に関する映像ということであべのタスカルで上映できないかと相談がありましたので、阿倍野防災センターでは1月17日を挟んだ3日間、1/16～1/18に体験コースを実施した来館者に映像を案内するという形でイベントを行いました。NHKさんには事前に取材をいただいてこういったイベントがあるので来館くださいとメディアで取り上げていただき多くの方に体験をいただきました。このイベントに関してはこれから定例で実施していきましようとして調整し、来年1月にも実施予定となっています。もう一つ、産経新聞さんと連携して、あべのハルカスで気象について学びその後、阿倍野防災センターで防災体験を実施してその後新聞を作成するといった近隣施設と連携したイベントも行っていて、今後もこのような取り組みを行っていききたいと思っています。

【14P】現在の取組み3として、コーナーを更新するとなるとスペースや費用的な面からも難しい状況になりますが、指定管理者で限られた予算の中で防災に関するコンテンツを作れないかということでARを使った消火体験ゲームつくっていただいたり、こちらにある地震が起こった際のポイントを学んでいただくコンテンツを作っています。このように

限られた予算の中で親しみやすいコンテンツを今後も作っていきたいと思います。今ある展示を更新となると多くの費用がかかってしまいますが、このようなデジタルコンテンツであれば比較的低コストで実施することができ、今までにないコンテンツになるので興味関心を持ってもらえるかなと思っています。また、メディアに対してもこのような新しいコンテンツあることを紹介して新たな来館者へ繋げていければと思っています。

【15～18P】今後の取組みとして、市民の利便性を向上する目的でLINEを使った予約システムを今年度中に実施したいと考えています。昨年度末から予約の受付を電話とFAXでの対応からメールでの対応も始めましたが、現状は電話で空き状況を確認していただき、FAXかメールで送信していただき予約する体制となっています。LINE予約システムを導入することでリアルタイムで空き状況が分かるので気軽に来館することができ、多くの方にコース体験をしていただけるよう取り組んでいます。この予約システムを取り入れるにあたり、今まで6つあった体験コースを整理し、今年度A～Dの4つのコースに整理しています。また、曜日時間ごとにどのコースを実施するのかを事前に設定しています。

●三田村 座長

施設の概要、現在の取組み等を話いただきましたが、みなさまご意見ご質問をいただきたいと思います。アンケートについて答えてくれている世代が均等であると思いますが世代ごとに他の項目について偏りがありますか。

●事務局

若い世代であれば市内の学校からの来館が多いので市内からの来館が多くなっています。また意見であった、体験を怖く感じた等は親子で来られたお母様などが多い傾向にあります。

●三田村 座長

阪神淡路大震災を直接ではなくても経験した30代後半以降の方は当時を思い出し、恐ろしく感じる人が多いかもしれない。40代50代の方がこのコーナーはもっとこうした方がいいのではないかといった意見はありますか。

●事務局

センター長、実際に御案内されている際になにかご意見いただくことがありますか。

●センター長

専門の職業の方からご意見いただくことがあります。たとえばガスの業者の方が、地震の揺れが収まったらガスの元栓を停止してくださいという案内に対して、停止する時間にも避難をした方がいいのではといった意見もありました。他にも防災士など知識を持った方

は専門知識も取り込んだ助言をした方がいいのではという方もおられます。

●事務局

あべのタスカルは広い世代の方に気軽に來ていただく、防災のファーストステップとして位置づけておりますので、ある程度知識をお持ちの方は少し物足りなくなると感じることもあるかもしれません。そういった方には消防署や高度専門教育訓練センターで行っているより高度な防災研修をご案内しております。そういった案内にも今後力を入れていかなければと考えています。

●三田村 座長

コーチングというところで、コース体験終了後の体験者との振り返りが非常に重要で、振り返りから体験者が次のステップにうまく繋がっていくようにこの施設をきっかけにさせていただくことが重要です。あべのタスカルに來て終わりではなく次のステップの導入としてこの施設があることを重要視します。

●池内 氏

コーチングのところで以前も踏み込んで体験者へ伝えていただいていたように思っております。アテンドさんの案内からコーチングへという部分に違和感があり、以前からの違いについて明確にお聞きしたい。

●事務局

昨年度までは案内役のアテンドさんは共同事業体の3社のうち1社であり、会社の方針として決まったセリフ以外を言うてはいけないという決まりがありました。人によっては臨機に対応を変えていただくこともありましたが、別会社ということで助言内容をリアルに反映する等柔軟に対応することが難しい状況でした。今年度からアテンドさんも直接雇用することとなり、従前より助言指導内容を支障なく反映することができるようになりました。

●池内 氏

中にはコーチングされたくない方もおられ、説明だけを受けたい方もおられるのではないのでしょうか。

●事務局

基本的には決まった内容をお話しして、状況に合わせて変えていくという形にしています。

●池内 氏

それであれば理解できます。

●座長

体験者との交流を通して、要望に応じて次のステップへ進めていくかを案内するという形ですね。

●池内 氏

伝える側が一方的に防災を教えるだけのコーチングを体験者は求めていることもあるので交流をとおして温度感を感じることが大事です。一方、防災士を目指したり、学校の先生であったり、他の人に防災を教える必要のある方にとってこのコーチングは非常に有難いのではないかと思います。こういった方は、初めのうちは他の人への教え方がわからないので、それをコーチングにより教えてもらえるのは非常に効果的です。

●池内 氏

オンライン予約はなぜLINEなのでしょう。

●事務局

コストの問題で、ホームページで予約システムを作ろうとするとそれに係るサーバーの維持に多額の費用がかかるため、サーバーを必要としないLINEで検討しています。

今年度からの指定管理者募集要項の中でデジタルを取り入れた予約システムという項目があり、5年間の中で導入するとなっていますが、指定管理者さんが積極的に進めていただいております。今年度から暫定的に導入できるよう進めていただいております。

●碓田 氏

アンケートを約4,000人取っていただいておりますが、もう少し深く分析されていきますか。

●事務局

クロス集計をしたものを提示できればよかったですが、今回は準備できていませんので、次回の会議の際はクロス集計などもっと詳しくしたものをご提示できるよう準備してまいります。

●碓田 氏

アンケート項目の中で「助かる力・助ける力が身についた」とありますがこれは別々に集計した方がいいのではないのでしょうか。ステップアップした助ける力を切り離して考えた方が今後の改善にもつなげやすいと感じます。

●事務局

おっしゃる通り、まずは助かる力をつけていただきその後助ける力を身につけるということで分けて考えた方が良いでしょう。ただこの項目は 5 年間の指定管理にかかる評価の指標となっていますので、その点も考慮しながら、次の指定管理選定に向けて課題としていきたいと思っています。

●碓田 氏

他機関との連携について、大阪市には住まい情報センターのような防災に力を入れている機関もありますがそのような住まい関係の機関との連携はされているのでしょうか。

●事務局

住まいや住宅といったところで、こういったところと連携すればいいのではというところがあれば是非教えていただき、体験コーナーの充実に向けて担当者と連携を図っていきたいと考えています。

●碓田 氏

教育委員会との連携はありますか。

●事務局

教育委員会へは年度当初に防災学習施設として阿倍野防災センターの御案内や、小学 4 年生に向けた防火防災パンフレットを配布しており、小学 4 年生以降の学生が防災センターに来館いただくことが多くなっています。

●碓田 氏

児童・生徒が団体で来館する前に引率の先生が事前に体験に来られることがより一層、防災授業として効果があると思いますが、あべのタスカルでも事前に先生が来られていますか。

●センター長

学校の団体予約をされた後に、下見として先生が来られて事前体験されることがほとんどです。先生方が集まって来られるところもあれば都合により個々で来館されるところもあり、様々です。

●三田村 座長

津波高潮ステーションなど近隣の防災施設との連携はありますか。

●事務局

あべのタスカルをリニューアルの際にそれ以前に東日本大震災もありましたので、津波のコンテンツを入れようとしたときに津波高潮ステーション様から情報を共有していただくこともあり、コロナ前までは年に1回担当者が集まり打ち合わせをする機会がありました。あべのタスカルでは津波避難を体験していただく、高潮ステーションでは展示から学ぶというようにすみ分けして連携しています。

●座長

大阪に本社があるような企業との連携を深めていくことも必要であると感じます。そうすることで、企業側もアピールするでしょうし、場合によってはメディアへのプレス発表にも繋がりますので、そういった企業との連携を拡大していただきたいと思います。

定期的なプレスへの売り込み等はされていますか。

●事務局

阿倍野防災センターだけでは、報道への売り込みはしておりませんが、消防局の地域担当として、定期的に報道への売り込みを行っています。そういった取材の機会を通して防災センターでのイベントや取組みなどを紹介しています。おっしゃる通り、阿倍野防災センターという施設の売り込みを今後もっと取り組んで行ってもよいのではと考えています。

●沖 氏

家族が防災に対して熱心で防災の講習会などもよく行っており、話を聞くのですが、防災に関する内容や考え方が毎年のように変わってきており、それに合わせて体験者の知識や技術をリニューアルする必要があると思います。アンケート結果を見ると「はじめて」の方が大半で、2回3回と来られる方が2割ほどで、繰り返し来られる方が半分くらいになるようにどうしたらいいかというところです

有料化の部分ですが、大阪市から来られる方が4割でその他は大阪市外ということでそういった方に目をつけていったらいいのかなと思います。こういった防災施設は関西では大阪市だけですか。

●事務局

政令指定都市の消防本部であったり、近隣では堺市に防災センターがあります。

●沖 氏

私の住まいは京都なんですけど、家族が防災の講習を受ける際に京都ではなく大阪市の講習会によく参加していると聞いており、大阪市はレベルが高いので他都市の方がよく利用

されているのかなと思います。

●事務局

大阪市の講習会は実施回数も多く利便性も良いところにあるので、近隣の京都や神戸の方も良く利用されるのだと思っています。ただ、このような講習会は有料の講習となっていますのでテキスト代など実費を負担していただいているものとなっています。

有料の話が出ましたので後ほど説明させていただきますが、防火防災の普及啓発の施設ということで全国的に見ても有料にしている施設は現在ありません。人と未来防災センターなどは有料施設であります、災害の伝承施設であり、文化施設のなところは有料のところもあります。阿倍野防災センターのような公共団体が管理している施設はすべて無料となっています。そういった点も踏まえてどのように管理運営していくかが課題となっています。

●沖 氏

先ほど三田村先生がおっしゃったように企業さんに売り込んで、阿倍野防災センターとして考えている取組みを提案し、その取り組みに対して企業側が費用を負担してもらうという連携の仕方もあります。

今までは公の機関が防災の知識を普及していましたが、今は防災に対する社会の意識も高くなっているのもっと広げるという意味で企業さんも取り込んでいくのが良いと思います。

●事務局

そのような企業との連携も徐々に力を入れているところでありますので、ご意見を参考に指定管理者と相談しながら拡大をしていきたいと思っています。

●三田村 座長

それでは続いて議題3「指定管理者が行う自主事業について」阿倍野防災センター 藤岡センター長より説明いただきます。

●センター長

【19P】私の方から物品の販売促進についてご説明させていただきます。

あべのタスカルのマスコットキャラクター「たすける」のロゴを使用した防災センター限定のグッズを何点か用意しています。まずはこのクッションですが、皆さん防災グッズを普段はリュックに入れどこに置いたかわからなくなることもありますので、このクッションはソファに置いていただけると、いざという時にこれを持って行ってもらえるようになっています。中に必要なものを入れておいていただくと非常時の持ち出しとしてすぐに持っていくことができます。

他には「たすける」をプリントしたTシャツやタンブラー、またアンケートの結果から人気商品のトートバッグなどを準備しています。さらに限定商品として年代物の消防車や現役の消防車などをプリントした缶バッジを作っておりガチャガチャにして販売予定となっています。こういった取り組みにより少しでも収益を上げていきたいと考えています。

●事務局

【20P】今までは既製品を販売するだけでしたが、オリジナル品や消防局が保有しているデータを使って販売促進していくことで施設のPRに繋がり、指定管理者の収支改善になれば消防局としても経費の削減に繋がるためこういった取り組みを積極的に進めていきたいと思っています。

現在は物販をこの阿倍野防災センター内でしか行っていませんが、今後インターネットなど販路を拡大していけるよう、指定管理者と相談し取り組んでいます。

昨年度の自主事業収益は2桁(万円)でしたが、今年度はまず3桁(万円)にそれから200万円300万円と増やしていけたらと思っています。

その他に、有料のイベントを検討していきまして、当初は体験コースにプラスして付加価値のある内容をつけて何かできないかと考えておりましたが、現状の体験に、有料でなにかプラスの内容を追加し、現状の体験コースとの差別化が難しいと考えています。そうした中で、スポーツ鬼ごっこの団体様から何かコラボできませんかという話をいただきまして、現在検討しているものがあります。スポーツ鬼ごっこは決まったルールの中でチームプレイを発揮しながらゲームを進めていくというものになっており、体の敏捷性やチームワーク、逃げる力を高めていきます。例えばイベントの前半でスポーツ鬼ごっこを1時間程度行ってもらい、そこでチームワークを深め、グループ分けして防災体験学習を実施してもらいながら救出方法などを学んでもらう等の有料イベントを一度やってみようという検討をしています。これで好評であれば実施回数を増やすという形で今年度はまずやってみようということになっています。

ここまですが指定管理者の収益アップへの取組みになっておりまして今年から力を入れて実施していこうと思っています。この取り組みに対してご意見をお願いします。

●三田村 座長

物販に関して、小中学校のような団体で体験されている場合購入されることはまずないと思いますので、購入の機会がある方は地域の方であったり、家族連れで来られた方になるかと思います。参加形態によって物品販売ができる場合とできない場合がある中で、ここ(阿倍野防災センター)だけの販売では広がりがないと感じます。阿倍野防災センターのイメージキャラクター「たすける」はメディアに出る際は必ず露出するようにしてもらい、一般の方に阿倍野防災センターのキャラクターと認知してもらうことで販売に繋がると思っています。

●池内 氏

LINEスタンプをされていますが、消防士が筋トレをしているようなスタンプが面白く消防らしくて良いと思います。

グッズの購入は観光客のほうが多いのではないかと。地元の方は財布のひもが固くなかなか購入しないのではないかと。外国人の方は比較的買ってくれそう。

●事務局

市民の方の購入は若干少ないのかなと、それ以外の方がグッズ等を購入していただきそれが収益になればと考えています。施設を有料にしようとしてもそもそも利用される方が減ってしまうのではないかと思いますので、市外からこられた方に多く購入していただけるように持っていければと思います。

●碓田 氏

「たすける」のグッズに阿倍野防災センターのイメージキャラクターとわかる表記がないので購入される方が何だろうと思うことがあるので、表記を入れた方が良いのでは。

●事務局

表記を入れるとデザインを損なうこともあり、そういった話も出ましたが、デザインとのバランスを考え、入れると少し購入意欲を低下させてしまう可能性があり、入れないほうが良いと判断しました。そういう意味でもイメージキャラクターの「たすける」がもっと認知されるよう取り組んで行くことが大事だと思います。

●沖 氏

イベント等で民間とコラボしているとのことでしたので、このキャラクターも一緒にコラボする、例えば企業の商品のパッケージに使用してもらうなどしてもいいのかなと。

●事務局

今まで「たすける」のキャラクターを民間企業とコラボするという視点はなかったのですが、民間とのコラボを通じてキャラクターを認知させていくというのは良いアイデアだと思います。

●池内 氏

最初のころは防災意識の向上というところを目的として取り組んできたと思いますが、災害が多発していることもあり、今はこの施設に来て防災意識を持つものではないというか、防災意識を持った状態で来られているのかなと思います。そういった中で、無料施設を

続けるのは違和感があります。無料で多くの方に施設に足を運んでもらうことと有料の体験を組み合わせしていく時代に来ているのかなと思います。

イベントとして有料にするのがファーストステップと思いますが、Bコースの内容のようにステップアップした体験が有料でもいいのかなと考えます。今後人口減に対してどう対処していくか問われているので、一般の方向けだけでなく次の防災の担い手になるような人、防災に興味がある人に対して、有料でも良いと思ってもらえるような内容になればいいのかなと。自信をもって有料にすればいいと思います。

●三田村 座長

自主防災組織のような自治会の防災の担い手もどんどん高齢化してきて、それらの方は熱心に防災に取り組んでおられるが、次の世代へのバトンタッチがうまくできていない。そういった組織の中には問題意識を持っている方も多くいるが、なかなか防災を学べる場所がないと感じています。そういった防災への感心を高く持った方々が学べる何かがあるのが有料としてあってもいいかなと。この施設でしかできないコンテンツがいくつかあればいいと思います。

●沖 氏

今までは無料の施設であるからアンケートでも良かったよねという意見が多いが、お金がかかるとなるともっとこうした方がよい等の意見がたくさん出てきて、逆に良いのではないかな。

●三田村 座長

そういった意見からリニューアルをしてより良い展示内容になればいいと思います。

●事務局

消防局の訓練センターではよりステップアップした研修をしまして、一般の市民の方や地域の団体は無料で参加できるのですが、企業での研修は有料で実施している内容があるのでその辺りも参考にしながら検討していきたいと思います。

東京のそなえエリアでは一部有料のコースがありまして内容としては、基本、案内はつかずに展示を見学していくことができますが、有料で案内をつけることができます。大阪市では元から案内がついていますので、どのような形で有料にしていくかはより検討していかなければなりません。

また、仮に有料にするとなると、大阪市の条例で阿倍野防災センターは無料となっていて、それらに基づき5年間の指定管理を選定していますので、施設そのものを有料にするとなると次回の指定管理選定する令和12年度からとなります。そのタイミングで有料にするのかどうするかを含めこの会議の中で議論させていただきたいと思ます。

●三田村 座長

続いて議題４、起震装置更新に伴う代替展示について事務局から説明いただきます。

●事務局

【21～23P】起震装置について施設ができた平成16年から運用していてリニューアルの時も更新の話が出ましたが予算がつかず、今年度ようやく予算が付いたので今年度から1年半かけて撤去と新起震装置の設置工事を行います。その間は地震体験はできなくなりますが、地震体験以外のコース体験は通常通り行います。ただどうしても、撤去の期間10月10日から10月28日までは防災体験学習エリアが使用できず、研修訓練エリアの方で代替展示を行います。

内容としてはシアターの映像視聴、119番通報、水消火器による消火、ARによる煙体験、避難器具の展示と使用方法説明、救助体験、応急救護体験になり、1時間のコースを準備しています。フリーエリアの中にはAR消火ゲームやARによる地震のコンテンツもあります。

このように約3週間、代替展示を行います。来年度も起震装置の設置に伴いまして代替展示の期間が1か月程度でできますので、内容等についてご意見をいただければと思います。なお、土日祝には起震車を搬送して地震体験の方も実施します。

●三田村 座長

新しくなる起震装置は現状のものから新しくなるコンテンツ等がありますか。

●事務局

体験内容としては新しいコンテンツを導入したかったのですが予算の都合上、内容は同一となっています。ただ、現状の起震装置は油圧式ですが更新後は電気式に変わるので、ランニングコストは低く抑えることができます。

●池内 氏

地震体験を有料にしてはどうか。あとは屋内消火栓での放水体験とか。現状あるコンテンツを防災意識が高くなっているご時世も考慮して有料にすればどうか。希望者が体験しているという現状もありますし。

●事務局

地震体験だけや放水体験だけを有料にするのであれば条例等の取り決めに触れる可能性も低く、指定管理期間中にできる可能性もありますので検討していきます。個人から徴収するとなかなか参加されないかと思うので、団体や企業単位で実施すると現実性がある

かなと考えています。

●三田村 座長

起震装置の更新もあり、有料化について検討するいい機会かもしれませんね。

代替展示については、今年度やってみて来年度どのような形にするのか検討していただく。

●事務局

承知しました。

●三田村 座長

それでは続いて阿倍野防災センターの更新について事務局より説明をお願いします。

●事務局

【24. 25P】昨年度の大阪市会の中で、今後の限られた予算で運営していかなければならない中、消防局全体の庁舎についてあべのタスカルも含めてどのように効率的に運営していくのか施設の維持管理計画を検討することとの意見が議会からありました。パターンとしては、あべのタスカルの現状このまま維持管理していくというのが1つ、それ以外としては消防署の建て替えに合わせてあべのタスカルを合築する、その他には今、東大阪市にある訓練センターの湾岸部への移転に合わせて、あべのタスカルも移転するという案などが出ています。

あべのタスカルは立地的にとっても良い場所にあるので、この4月から「どの程度の距離であれば防災学習施設に来たいと思いますか。」というアンケートを取りまして、結果として大阪の主要な場所（梅田、難波、天王寺等）から離れた場合、今よりも3分の1や半分の来館者になるということになっております。

消防局としてこれからじっくりと検討していかなければならない事項でありますので、ご意見をいただければと思います。

●池内 氏

大規模災害が起こった際に訓練センターや消防署と合築になっていると、一般市民が大勢来てしまう恐れがあります。それは一般の方が慣れ親しんでいる場所に来てしまうからで、訓練センターや消防署に大規模災害時、一般の方が来てしまうと消防活動に支障をきたしてしまう。あべのタスカルと消防署などの施設は離れてあることがとても重要だと思います。また、移転するとなると費用もより掛かってきます。そういった理由からも安易に移転を考えるべきではありません。

●三田村 座長

ここあべのタスカルは非常に利便性の良い場所にあり、各消防署からは少し離れた位置にあり条件的にすごくいい場所なので、安易に移ることを考えない方がいいと思います。ただ今後いろいろなコンテンツを増やしたり、来られる方のキャパを増やすなど拡充を検討していく必要はありますね。

●事務局

この課題に関しては今後も引き続き検討課題となりますので、来年の会議の際にはどのような方向で取り組んでいるか等ご説明させていただければと思います。

●三田村 座長

以上で議題の審議を終了させていただきます。様々な意見ありがとうございます。それでは司会進行を事務局へお返しします。

●事務局

本日は様々なご意見を賜り誠にありがとうございました。頂いたご意見を基にできることを早速取り組んで行きたいと思っております。

今回の内容をふまえて約1年後に取組み等の状況を報告させていただき、3年間をかけてこの施設を少しずつ良くしていきたいと思いますので引き続きよろしくお願い致します。。以上を持ちまして第1回あべのタスカル検討会議を終了とさせていただきます。ありがとうございました。

※【 】は資料ページ数